2025 年度入社式　社長訓示

【石山社長】

１．はじめに

２．東北電力グループについて

３．新入社員の皆さんに伝えたいこと

＜失敗を恐れずに前向きに挑戦してほしい＞

＜地域から信頼される社員になってほしい＞

４．むすび

2025 年 4 月 1 日（火）13：00～

本店大会議室

１．はじめに

皆さん，こんにちは。東北電力の社長の石山です。

この度は，入社，誠におめでとうございます。

社会人として新たな一歩を踏み出し，新しい環境への不安や戸惑いなどを感じているかもしれませんが，社員一同，皆さんの入社を心から歓迎しています。

私からは，東北電力グループの現状などに触れながら，皆さんにお願いすること，期待することについて，お話しをさせていただきます。

２．東北電力グループについて

はじめに，東北電力グループについてお話しします。

東北電力は１９５１年に誕生し，「東北の繁栄なくして当社の発展なし」という考えのもと，７５年弱，三四半世紀の長きにわたり，社会生活に欠かせない電気を安定的かつ経済的に作り，お客さまに送り，届けてきました。

それは，東北電力グループの使命として，今も私たちに引き継がれています。

また，東北電力グループの経営理念である「地域社会との共栄」，そして，グループスローガンである「より、そう、ちから。」は，私たちにとって大切な不変の概念，存在意義とも言えるものであり，これからも変わらないものと考えております。

皆さんは，今日から東北電力と東北電力ネットワークの社員として様々な職場に配属されるわけですが，ともに力を合わせ，引き続きこの大切な使命を果たしていただきたいと思います。

現在，私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。東北地方に甚大な被害をもたらした東日本大震災以降も，２度にわたる福島県沖地震やウクライナ危機などが発生し，東北電力グループの経営状況が厳しくなる局面がありましたが，被災設備の復旧，電源の競争力強化とバリューチェーンの最適化，効率的な設備保守，間接業務の効率化，電気料金の見直しやお客さまサービスの充実強化など，一丸となった取組みにより，危機を乗り越えてきました。

今後も，物価高や金利の上昇，他の小売事業者との競争の進展，デジタル技術による変革，カーボンニュートラルの潮流加速と環境規制の強化　など，事業環境は大きく変化していくことが想定されますが，一方で，将来の電力需要が増加していく国の見通しが示され，脱炭素電源の最大限の活用とそのための事業環境整備などが検討されており，明るい変化も見えてきています。

東北電力グループは，昨年４月に，グループ中長期ビジョンの後半期に向けた今後の経営展開として「よりそう next^{+PLUS}」を策定し，電気・エネルギーを中心に据えた５つの事業領域を設定し事業を展開しています。

当面は，毀損した財務基盤の早期回復が最優先となりますが，中長期的には，持続的な成長に向けて，「利益・投資・成長」の好循環により，２０３０年代のありたい姿である「お客さまが，快適・安全・安心なくらしを実感できるスマート社会」の実現を目指していくことになります。

話しは，変わりますが，昨年の１１月，東日本大震災で被災し停止していた「女川原子力発電所２号機の再稼働」を成し遂げることができました。女川原子力発電所は，ＢＷＲ，沸騰水型原子炉でありますが，東日本大震災以降，運転を再開した最初のＢＷＲプラントになります。

この歴史的な再稼働をともに迎えることができたのは，皆さんの先輩方や，東北電力グループの皆さんが，一丸となって力を合わせ，安全対策工事など必要な準備を進め，お客さまや地域社会への理解活動などに真摯に取り組んだ結果であるといえます。

女川原子力発電所２号機は，ほぼ１４年ぶりに「営業運転を再開」し，現在も順調に運転を継続していますが，東北電力グループでは，新たに生まれ変わるという決意を込め「再出発」と位置づけています。安全確保に向けた取り組みや，原子力への理解活動に終わりはありませんし，電力の安定供給とカーボンニュートラルの実現に向けては，東通原子力発電所１号機と女川原子力発電所３号機の再稼働にも引き続き取り組んでいかなければなりません。

３．新入社員の皆さんに伝えたいこと

これまでの状況を踏まえたうえで，本日から東北電力グループの仲間となった皆さんへ伝えたいことを２点お話しします。

１点目は，「失敗を恐れずに前向きに挑戦してほしい」ということです。

これからも東北電力グループが地域とともに発展していくためには，電力の安定供給という使命をしっかりと果たしながら，スピード感を持って，お客さまのニーズに沿った様々なサービスや新たな価値を創り上げていかなければなりません。

そのためには，好奇心を強く持ち，挑戦し続けることが必要です。皆さんにとっては，職場で見るもの，聞くもの，全てが初めてのことになりますが，色々なことに関心を持っていただき，疑問に感じたこと，もっと良くなると気づいたことは，ぜひ，臆さずに職場の上司や先輩に話してください。

また，前例にとらわれず，創造性を発揮し，皆さんの新しい視点や感覚で，アイデアをどんどん出していただき，業務の改善やコストの低減，そして新たなビジネスの創出につなげていただくことを期待しています。

挑戦をしていく中では，様々な課題にぶつかると思います。その時には，前向きな視点で物事を考えることに加え，仲間づくりを考えて下さい。一人では無理でも，お互いの強みを活かし，より良いものを認め合う「謙虚さ」をもちながら，仲間が連携してチームワークで取り組めば，解決の糸口が見いだされ，良い結果が生まれてくるはずです。

２点目は，「地域・社会から信頼される社員になってほしい」ということです。

東北電力グループは，長年この地に根を張り，地域とともに歩んできました。

女川原子力発電所２号機が営業運転を再開した今，原子力発電所を運営していく事業者として，信頼される会社であることは，これまで以上に重要となります。

私は，東日本大震災当時，東京電力福島第一原子力発電所から直線距離で２５ｋｍほど離れた福島県南相馬市の相双営業所の所長でした。

その時には，営業所の所員とともに，大変な状況の中で設備の復旧や停電の解消などに取り組みましたが，現地で原子力災害の凄まじさと怖さを実感するだけでなく，我々を信頼して避難せずに様々な支援・協力をいただいた地元の皆さまの存在に感謝し，長い年月をかけて諸先輩が築き上げてきた「地域との絆」の重要性を再認識させられました。この地域との絆は，東北電力グループの大きな強みでもあると考えています。

東北地域は，他の地域に先駆けて，人口減少，少子高齢化，過疎化が進展していきます。

グループ中長期ビジョンは，これから顕在化する地域の社会課題に，東北電力グループがしっかりと向き合い，地域やお客さまとともに，成長していくことを目指しています。

そのためには，地域の皆さまから「困ったときに相談され，頼りにされる存在」であり続けることが必要です。

地域の方々とのコミュニケーションなど，様々な機会を通じて地域の現状や課題などを理解し，皆さんそれぞれの立場で，どのようなことができるのかを考え，できることから実践してもらえれば，有難いところです。

このような地道な行動の積み重ねにより，社員一人ひとりが「頼りにされる存在」となり，ひいては東北電力グループ全体への厚い信頼につながると考えています。

４．むすび

最後になりますが，あの未曾有の悲劇をもたらした東日本大震災から１４年が経過しました。震災後も異常気象による災害が幾度となく発生し，被害も激甚化していますが，社員一人ひとりが強い使命感と誇りを持って，毎日地道に努力を積み重ね，被災地域の復旧と復興，そして，電力設備を維持・改修しながら，電力の安定供給に努めてきました。

これからも，社会の重要インフラである電気をお客さまに安定的に供給していくことが，事業の基盤となりますが，これからの成長に向けて，未来を切り開いていくのは，ここにいる皆さんです。

東北電力および東北電力ネットワークでは，社員全員が心掛ける目標として，毎年，モットーを掲げており，２０２５年は,「さらなる成長へ 変える・創る・挑む」としています。そこには,

①自分たちの意識，事業のあり様(よう)も変える,

②時代に合わせて新たなものを創り出す,

③そして挑戦し続ける,

という思いが込められています。この視点を常にもって，無限大の可能性に挑戦して下さい。

あらためて入社おめでとうございます。力をあわせて共に頑張りましょう。皆さんのこれからの活躍を大いに期待し，私からの訓示とさせていただきます。

以　上